

2024年度(令和6年度)
カラ事業報告書



建設中の女性センターの前で

マリの現状

■ 大雨による被害が拡大

2024年秋、現地マリ共和国は大雨に見舞われ、人々の生活に甚大な被害を与えました。バマコ市内では行政府庁や銀行、フランス文化センターなどがある独立広場近くを流れるニジェール川からの浸水があり、水の中をバイクが通る状況やロータリーの高台に避難している人々が、インターネット上で映し出されていました。

またこの季節は主食となる穀物の収穫時期でもあります。地方によっては、村人が水の中を泳ぐようにしてトウモロコシの収穫を行っていました。これはカラの活動地域ではありませんが、マリで報道された動画から切り取った写真を掲載します。

このような地域では、水が引いた後の感染症が心配になります。カラの活動地域も大雨による被害が甚大でした。人々の家は土レンガで建設されているので、容赦なく打ち壊されてしまったと聞いています。しかし住居だけではなく、カラがこれまで建設した識字教室や、助産院・診療所の一部、女性センターも崩壊してしまいました。女性の楽しみでもあり、生活を支えている女性野菜園の周囲を囲う柵も大雨で流されてしまった村もありました。

漁業を生業としているソノモダガブグー村はニジェール川沿いにあるので、大雨ですべての家が流されてしまったということです。カラは過去この村に識字教室とトイレを建設しました。公衆衛生指導にも何回か行っていました。家を失った人々は、どこでどのように暮らしているのか心配になります。長閑な生活をしていた村の人たちや、ニジェール川で魚を獲って生活を助けていた少年たちの顔が目に浮かびます。非常に気の毒に思い、彼らの苦労を感じられます。



水浸しになった耕作地でのトウモロコシの収穫



バマコ市内の洪水



ニジェール川の氾濫で消えてしまったソノモダガブグー村の面影

■ イスラム過激派とどう折り合っていくか

天災による被害の他に、イスラム過激派・ジハード主義者たちの行動が人々の生活を苦しめています。前年から続く状況は収まることなく続き、村人は村に入り込んだジハード主義者と鬭うのではなく、話し合って彼らの主張を聞き、元の生活に戻そうとがんばっています。

ジハード主義者が主張する厳しいイスラム教の經典では、村人、特に女性は外に出て働いてはいけない、働

くべきではないとされ、野菜栽培も女性センターでの仕事も拒否されています。市場に買い物に行けず、病気になっても診療所・病院にも行くことができない状況です。

そのため、現状では村人には全く収入がなく、食糧不足になります。今や女性が働かないと日々の生活ができないのです。村では、女性が働くように地域をコントロールしているジハード主義者に交渉して許可をもらい、少しづつ女性の活動が可能になるよう努力しているということです。

現地からの報告

ラミン ジャワラ(マリスタッフ)

現地事務局のラミン ジャワラから次のようなメッセージが届いています。

マリに住む我々を長きにわたり支えてくださったカラの支援者の方々、また多くの日本の皆様に深く感謝申し上げます。

今回は、現在深刻な危機に直面しているマリとその周辺地域の国の状況をお伝えしたいと思います。

マリ共和国は過去からの多くの問題をひきずっており、現在も苦しんでおります。

それは世界経済の状況とジハード主義者の問題により、さらに厳しく困難な状況に陥っています。特にこれまでの4年間、マリは非常に深刻な財政難と政情不安に悩まされてきました。

2025年1月、マリ・ブルキナファソ・ニジェールはECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)から脱退し、新たにAES(サヘル共同体)を結成しました。

これら3カ国は長年にわたり、サヘル地域に拠点を置く国際テロ組織やイスラム組織と戦ってきました。この3カ国でクーデターが発生した際、ECOWAS諸国は他国との陸路および空路の国境をすべて閉鎖し、貿易・経済・金融の流れと取引を停止しました。ECOWAS諸国は彼らを助けるために何もしませんでした。AES加盟3カ国は、ECOWASへの加盟が自国の発展に有害であると考え、これに抵抗するために力を合わせることを決定したのです。AESは独自の単一通貨、さらには単一の軍隊を創設したいと考えています。これまでIDカード(身分証明書)だけで近隣諸国に簡単に出入国できましたが、AESパスポートはすでに存在しています。

しかし、ECOWASは、3カ国がECOWAS圏に復帰できるようあらゆる努力を払うよう議論しています。現在、AES諸国はフランスと関係がありません。

また、国民に恐怖を与えるジハード主義者の襲撃は続いています。ジハード主義者たちは軍との直接対決を避けるため、同一場所(村・地域)に留まるどころか、国中を移動して襲撃を行い、主に貧困層を恐怖に陥れています。

バマコ市では、長きにわたって停電が続き、給水も止まっています。マリは1960年代と同じような貧困状態にあります。

かつてフランスの植民地であった国々はすべて、フランスによって資源が略奪され、搾取されたために未発展であり、大きな問題を抱えていると私は信じています。フランスはジハード主義者に資金と武器を提供していると言われています。マリのこの状況は、国の将来について重大な懸念を引き起こしています。

マリ共和国では2025年の大統領選挙と議会選挙はまだ行われていません。しかし、2025年4月と5月初めに全国的な協議が行われ、その結果次の事が決められました。

1. 今後数年間、アシミ・ゴイタ大統領をマリ共和国の大統領に任命する

2. すべての政党を解散し、新しい政党の設立と資金調達に関する厳格な基準を導入すること。

また、カラのスタッフである私は、安全上の懸念と交通事情が危険な状況のため、カラの事業サイトへ出張



マリスタッフ
ラミン モハメド ジャワラ

することもできません。

一方、村からバマコまでは乗り合いバス(公共交通機関)で移動する方が安全なので、村のスタッフに電話で連絡を取り、必要な時にはバマコへ出てくるように申し渡します。しかし、このような困難な状況下でも、カラの支援を受けた村々は、ある程度は自力で不都合な問題が発生しても対処できるようになりました。

例えば、ヌムブグー村では大雨により産院が流されました、村人たちは臨時の分娩室を建てました。

それまでに産院での収入から貯蓄されていた資金が使用されました。野菜栽培事業も同様で、種子の購入が難しいのですが、これを乗り越えれば栽培は可能です。カラジャパンからの今年の資金援助により、村人たちは徐々に活動を再開できるようになりました。

カラジャパンは、活動地域に住む人々がこの危機に対処できるよう、ソモノダガブグー村民の再定住支援、村の女性たちの菜園や識字センター・女性センター・ジハード主義者や大雨により甚大な被害を受けた産院の再構築への支援など、最大限の支援を行っています。村は文化的・経済的・宗教的な活動(伝統的なコモ祭りの中止など)がある程度制限されるなど、引き続き課題に直面すると予想されます。

再度、世界的な灰色の状況が続いているにもかかわらず、何もかもが欠け、貧しい運命に見捨てられている我が国民を助けるために、自らを犠牲にしている日本国民に心から感謝します。

日本からの支援

2024年度は天災と人災の被害を被ったことに対する復旧支援事業としました。詳細は次表にまとめました。

村名	供与資金	要請項目
1 コニナ村	250,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種 ●産院継続費
2 ドンギネ村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種
3 モバ村	250,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種 ●産院継続費
4 シングロブグー村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種
5 カニカ村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種
6 コンバ村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種
7 コニナブグー村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種
8 ママブグー村	150,000	●女性センター用資材 ●野菜園に野菜種 柵修理
9 キバン村	250,000	●女性センター用資材 ●野菜園野菜種/柵修理 ●識字学習支援/教材
10 ソモノダガブグー	1,300,000	●村民生活復旧支援 ●識字教室建設と教材
11 デメレブグー村	100,000	●識字学習支援/教材
12 ヌムブグー村	1,524,000	●産院継続支援/薬剤
13 バブグ村	150,000	●女性センター資材 ●野菜園用種/柵修理 ●産院継続支援
14 コッサバ村	50,000	●野菜園に野菜種/柵修理
15 シラブレ村	50,000	●野菜園に野菜種/柵修理
16 ジョレ村	50,000	●野菜園に野菜種/柵修理
17 ニヤマコロブグー村	50,000	●野菜園に野菜種/柵修理
18 カラバマコ事務所	600,000	●輸送費 ●スタッフ3人手当
合計		5,524,000cfa(日本円1,336,372円)

チャリティーコンサート「かけはし2025」開催のお知らせ

日時:2025年12月7日(日曜日) 14時開演

会場:日本歯科大学内 B1【九段ホール】 JR飯田橋西口下車靖国神社方面へ徒歩5分

出演:スパニッシュ ギターユニット「DON ALMAS」

講演:村上 一枝「現在のマリ事情と自立の現状」

入場券:4,000円(お申込み・お問い合わせは直接カラへ)

ヌムブグー村の産院は大雨で流されてしまい、地面にゴザを敷いての出産となっていましたが、村では土レンガで仮の分娩部屋を建設しました。新たに産院の再建設が必要です。ソモノダガブグー村でも大雨で、住居も識字教室も失われてしまいました。

識字教室は、ジハード主義者による建物の破壊や教室閉鎖の命令により、長期に教室を締め切っていたため、シロアリが多く発生し教材がシロアリの食害に遭い、使用できなくなってしまいました。女性センターも同様で、資材の布がボロボロになってしまいました。

10カ所以上の野菜園の防護柵が流されたため、その修理をしなくてはいけないのですが、経費も材料の購入にも多額の資金が必要となります。ただ、これまでバマコの職人に建設を依頼していたため、職人の移動が現状では不可能でしょう。野菜園の柵の修理費には少しの資金の支援しかできませんので、不足分は女性を中心に村の人たちに工夫してもらい、今回は種子の購入費をメインに支援しました。一つの事業を取っても再スタートは多くの困難に阻まれています。

2024年度収支決算書

2024年度(令和6年度) カラ会計報告

(円)

収入の部		支出の部	
2024年度会費	492,680	マリ事業費・災害復旧費	
寄附金	1,490,743	建設費・管理費・人件費	2,476,927
助成金 (WF基金)	200,000	日本事業費	424,483
販売収入 (カラコンサート 切符代金含)	850,594	コンサート経費・交通費・通信 費・郵送費・事務用品費・他	
		広報費・(年次報告書作成費等) 印刷・レイアウト作業労務費	138,319
預金利息	402	マリ事業費送金銀行手数料	17,500
		会費入金手数料 (ゆうちょ銀行)	1,850
計	3,034,419	計	3,059,079
前年度から繰り越し	1,213,301	次年度へ繰り越し	1,188,641
合計	4,247,720	合計	4,247,720

三菱 UFJ 銀行 年度末残 469,584 円
ゆう 貯 銀行 年度末残 548,163 円
干 振替口座 年度末残 159,230 円
年度末現金残 11,664 円
(使途不明金 7,977 円)

カラ会計 監査担当

R.7.5.20. 上記の通り 説明事項
監査いたしました。

神山咲子  薊 順子 

日本国内での活動

毎年実施しているカラのコンサートを12月1日(日)に日本大学歯科大学のホールで行いました。前年好評で、多くの方からの要望もあり、再度サコさんにご登場をお願いして村上との対談を行いました。話題はやはりマリの現状でした。サコさんは、ジハード主義者の行動の目的が理解できない、と語っていました。

年末の多忙な時期に2000年から継続して来たこのコンサートもそろそろ終了の時期を迎えたと思います。これまで多くのお客様に支えられてきたことに深く感謝致します。今年度も宮城県仙台市の宮城学院の生徒さんたちがカラ支援のためにバザーを開き、生徒さん達手作りクッキーを販売してくださいました。生徒さんたちだけではなく、ご指導くださる先生がたにも毎年の変わらぬご支援に深く感謝いたします。

また、2024年2月発行の村上の著書「悩んでも迷っても道はひとつ」を機に講演依頼が相次いでいます。可能な限りお引き受けしていこうと思っています。



↑
クッキーを作って販売
をして貰った
生徒さんたち

宮城学院の生徒さん
たちが作ったクッキー



2024年度日本国内での活動

2024年

- 4/13 【ねりまサイエンスカフェ】にて講演
- 5/29 【代官山セミナー】にて講演
- 6/7 日歯校友会【67回生 同期会】にてカラの活動紹介
- 7/20 【盛岡市 野の花美術館】にて講演
- 10/20 【東京盛岡ふるさと会】にて講演
- 11/28 【松山南高校在京同窓会】にて講演
- 12/1 【かけはし2024】にてサコ氏とマリの現状を紹介

2025年

- 1/19 【C.D.C(コンジェニアル デンティスト クラブ)】にて講演
- 3/1 【日本歯科大学校友会城西連合会 新春講演会】にて講演
- 3/29 国分寺市国際協会主催【第108回国際理解講座】にて講演

カラ西アフリカ農村自立協力会 <http://ongcara.org/>

代表:村上 一枝

東京事務局

〒177-0054

東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壱番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096

文責:村上 一枝 編集:宇佐見 靖子

ご注意ください:任意団体となり会の名称は「カラ西アフリカ農村自立協力会」となりました。